# 上水道有収率七割台に
## 漏水対策の効果でる

上水道の有収率は、昨年一昨年にくらべてかなり上昇しています。

水道課の調査では、四月七二・六㌫、五月六九・七㌫、六月七五・〇㌫となっており平均して昨年よりも一三・二㌫、一昨年よりも一二・七㌫上昇しています。昨年以来、本格的に漏水対策と取り組み、深夜の漏水調査など、努力の結果があらわれたものと見られます。水道課ではことしは平均して七〇㌫をこえることを目標としています。

一方、漏水は四月百六十一件、五月百四十件、六月百八十八件発生しました。漏水カ所別では配水支管の漏水が最も多く二八・七㌫をしめ、次いで止水栓、内線が二六・一㌫、分水栓二〇・七㌫、配水本管八・五㌫などとなっています。

## 百五番目の自治会誕生

早通団地県営住宅の新築六棟について新しい自治会が発足しました。こんどできたのは県営住宅第九自治会（二十四、二十八号棟）会長堀越民雄、第十自治会（二十五、二十六号棟(佐々覚会長、第十一自治会(二十七、二十九号棟)高橋哲夫会長の三自治会です。これによって市内の自治会の数は百五となりました。

## 自治会長に感謝状

市連合自治会（会長林伝一郎）総会は、六月二十五日市議会議場で開かれ、地域の自治活動につくされた次の方々に市長から感謝状と記念品が贈られました。

佐藤長四郎（梅ノ町）、野村勲（高森）、飛鳥井伝治（法花鳥屋）阿部信一（上黒山二区）、曽我勉（上町）、佐藤栄策（早通南三丁目）、阿部勝（灰塚）、渡辺徳左ェ門（下早通）、斎藤仁太郎（十二）

## 豊栄ハム・クラブ　紹介
### 水害やマラソンでも大活躍

（CQCQ交信する本田会長）

「CQ、CQ、こちらJAφAVS。どちら様かメリットありましたらどうぞ」

「こちらJA3AGO（奈良）……。」

いながらにして世界各国、日本全国と話ができるアマチュア無線（ハム）。豊栄にもハムを趣味にしている人々が集まって豊栄ハムクラブというグループ（THC）を作っています。昭和四十一年一月設立、会員二十六人です。

会の活動は活発です。二カ月に一度の会報「THC」の発行、毎月十五日の定例会、毎週水曜夜九時からの電波ミーティングなどいずれも会員の集まりはよく、新潟市内からもTHCにはいりたいと要望があるなど、魅力的な活動をしています。

ハムは趣味の王様と言われていますが、一方では電波という公共性のものを使うので、災害時の協力が電波法できめられており、社会的使命などきびしい一面もかねそなえています。THCも二度の水害のにがい経験を肝に銘じて、非常事態に備えて災害対策に協力しようと活動しています。

会員も趣味を通して社会に貢献しようと積極的な姿勢を示しており、市制施行記念のロードレースや市内一周駅伝の中継を行なったりしています。

会員に聞いて見ました。

。身体障害者がハムをはじめて、いながらにして日本全国二十万人のハムの仲間と話をし、これを心の寄りどころとしているという例があります。

。ドライブに行って道にまよったりしても全国のハムの友人が道を教えてくれます。だから知らない土地でも安心していけます。

事務所（会長宅）
稲荷浦　本田邦雄（七一―二七一〇）

## 恵まれない子どもへと寄附

「少額で恐縮ですが、恵まれない子どもたちのために役立ててください。」このほど早通南五丁目小林司郎さんから五百円がはいった封筒が届きました。社会福祉事務所で趣旨にそって使わせていただくことにしました。

## 民生委員に小柳さん

下黒山、名山、法花鳥屋担当の民生委員柄沢チヨさん（下黒山）が健康上の理由で辞任されました。このほど民生委員推せん委員会で検討した結果、この後任として小柳ムツさん（下黒山）を推せんすることになりました。近く厚生大臣から委嘱されることになります。

## 葛塚地区　忠魂碑を修復

稲荷神社境内にある葛塚地区忠魂碑の修復計画が進められています。

遺族会、軍恩連、傷痍軍人会、郷友会などで修復奉賛会（会長若林精一）をつくり一般の募金を行ない、市からも二十万円の補助が出される予定です。終戦のころ亡くなられた方で、合祀希望の方については、八月十五日まで社会福祉協議会と遺族会でこの取りまとめを行なっています。

## 長浦地区で敬老会

長浦地区敬老会が七月八日長浦中学校で開かれました。七十歳以上の招待者は昨年より九人多く、四百十三人、この日出席したお年よりは二百四十七人でした。

式のあと長浦民謡同好会の歌と踊り神楽。山川虎松さん（長場）が神楽に飛入り、往年の芸に拍手かっさいでした



# 部落・町内めぐり 3
## 内沼
### 全長三・二キロに連なる部落　農業振興に意欲的

**むかし**

内沼部落の小学校の変遷―明治五年旧第二十二大区葛塚校派出教場、その後浦木校の支場となり、さらに独立して梅雨校となる。その後嘉山校の分場となり、再度内沼尋常小学校として独立、明治三十六年長場小学校に合併―（小林徳四郎氏所蔵文書から）

享保十五年（一七三〇年）に沢村六良兵衛（祖父が近江の出身）が子孫のために黒飯野新田といわれたこの一帯の土地を買い求め、開墾したという記録があります。

部落の歴史は、一口にいって福島潟の水との闘いの歴史であったといえます。昭和二十六年に大沼ブロック土地改良区ができ、周辺一帯の土地改良が行なわれるまでは、春先にはかもめが飛びかい、胸まで泥につかっての農作業が行なわれていました。

明治二十二年には嘉山村に属し、百三十世帯、七百十人の部落構成でした。

**自治会**

駒林川に沿って弓なりに東西約三・二キロも連なる市内で一番長い部落です。百三十二世帯七百七十三人が、むかしから由緒ある勘七新田、拝領地、近江屋組、戸衛門組、飯野鼻組の五つの組に分かれています。ことしの予算は百五十二万五千円で、特に警防、衛生、産業の各部の活動が活発です。これだけ長い部落がひとつにまとまって模範的な自治活動を行なっているところも珍しいでしょう。執行機関として三役、理事会があり、議決機関として代議員制がとられています。重要問題のときには部落協議会が開かれることもあります。

新聞で紹介されたことがありますが、会合のはじまる時間が正確で、十分間以上の遅刻や無届欠席者には罰金が科せられます。

**自慢**

伝統を誇る内沼の獅子舞は市の文化財です。テレビや映画などでも広く紹介されており、十数人の伝承者がいます。

慶応義塾の塾長佐藤勝駒さん、国学院大学学長佐藤鉦三さん、東京帝国大学大学院を終えて中国へ伝染病研究のため派遣され、業なかばにして亡くなられた山田信一郎理学博士は、ここの出身です。

ここ十数年間保護対象となるような非行青少年がひとりも出ていないことや、戦前から毎年実施している七十歳以上の老人のための敬老会、あるいは、消防団員の不足を補うために一戸一人の予備消防団員をおくことなども特色のひとつです。

若い人たちを中心に稲作転換で行なった施設園芸は、この実績が認められて新潟日報祭で表彰され、このリーダーの長谷川勇さんは県農業まつりでも表彰されました。

**なやみ・ゆめ**

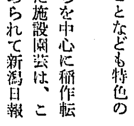
農道舗装事業によって、部落内幹線道路の約半分が舗装されましたが、部落中央部の改良が急がれます。また、県道へ通ずる道路が狭いのが悩みのたねとなっています。

胸まで泥につかっての田植や稲刈は昔語りとなりました。稲作転換で組織した長浦園芸組合（組合長坂井好）は特異な発展を続け、注目されます。また酪農もさかんになってきています。農業振興にかける活気ある息吹きとあすの農業への明るい期待が感じられます。

自治会長の佐藤之良さんは「わたくしたちが三十年前、四十年前を追憶して懐かしむように、いまの子どもたちが成人して心のささえになるような故郷づくりを進めたい。まず、子どもたちの遊び場を公民館を中心に考えて行きたい」と話しておられました。

（このあたりは胸まで泥に……話してくれた小林徳四郎さん）

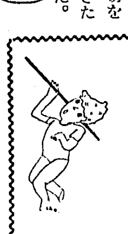
## 第3回市民大運動会



とき　八月五日（日）（雨天のときは八月十九日に変更）

ところ　葛塚中学校グランド

競技　各地区対抗　昨年は岡方地区が優勝しました。

種目　女子百米、ざる引き競争、親子玉入れ競争、青年ロードレース、幼児競争、職域対抗リレー、海外旅行リレーなど盛りたくさんの種目が予定されています。

テーマ　「健康と融和」